

OUTSIDE THE BOX

サラ ジュディス (カナダ アルバータ州のTIGHR

会員)

箱の外、というのは最近大変よく聞くことですが、ラグ・フッカーにとって何が箱でその外で、とはどういったことでしょうか。

クラフトに創造性は不可欠です。クラフトや、ラグ・フッキングの技法を知り尽くしたうえでの外への体験となるでしょう。イマジネーションは膨らみ自由に駆け巡っても、それまで探求し展開してきた知識の上の可能性のもとだけでしかないでしょう。

ラグ・フッキングはとても簡単に学べます。ループを引き上げる基本技法はすぐにできるようになります。では熟練のフッカーはどんな技法を知る必要があるのでしょうか。伝統を伝えるフッカーにはシェイディングが重要です。フィンガリング、フェザリング、シェイディングはフッカーの知っておくべきことです。これらの技法は3-4ミリ幅の布糸だけでなく幅広い布糸にも使うことができます。色彩にこだわるフッカーは染色に重点を置きます。ウールの布をどんな色にも染められれば究極のパレットを持つことになります。グラデーション染色、スポット染色、ディップ染色、絵画染色、マーベル染色、混合染色などがあります。技法としてはプロッキー、ステンドグラス、スカルプチャー等があり、チェインステッチや ビーズを使う創造的刺繍なども可能性を広げるでしょう。

材料

箱の中、となる伝統的なフッキングはウールの布糸を使います。しかし探求する価値のある材料はたくさんあります。モヘア、シルク、アンゴラ、コットンなどの糸、フリース、粗撚り糸、光沢布、Tシャツ、ナイロン、ラフィア、プラスチックバッグ、靴ひも、革、ビロード、デニム、マイラー、針金など試してみましょ。何でも糸状にできるものは試ましょ。これらの材料は作るものによって向き不向きがあるのできをつけましょ。フッキングしやすいものは使い、やりにくいものはあきらめず使っていくと面白いものができるでしょう。これらのどれか一つを作品に加えることで作品がより価値のあるものとなるでしょう。(ヒント:合成繊維やシルクなどすべりやすいものはウールなどのほかの布糸と一緒に使たり、フッキングしたところにあとからフッキングを加えるとよいでしょう。)

ほかの大事な材料は土台布です。リネン、モンクスクロス、バーラップ、ラグワープ、ポリエステル、ベレル、などが一般に使われています。ほかになにが使えるでしょう。ループが通るすきまのある布はどうでしょうか。アクリルや綿のタオルケット、蚊帳、目の粗い古い毛布、ラッチ・フッキングの土台布、金網、コーヒーマグの麻袋など試してみると、3Dや変わった効果が出て面白いです。

体裁

作品をどんな形に作るかは大切なことです。一般的には、長方形、正方形などのほか円や楕円などです。変わった形の三角形や多角形の作品に挑戦してみましょう。これらの形が活かせる主題を考えましょう。

または主題が描写にぴったりの形を異なる形に作ってみる、例えばよく見る水平線の日の入りでなく、垂直の縦長の形にしてみる、花を花の形に仕上げるなどといったことです。

色

木は緑、空は青、雪は白、と私たちはほとんど決まりきった物の色となれ親しんでいます。もしあなたが雪をよく見たら、ピンク、青、黄、そして緑さえも光によって見えるでしょう。ですから奮い立って今までとは異なった色を使ってみましょう。これは予期されぬ劇的效果を出す大胆な明るい色を使った野獣派主義のスタイルでした。あなたが今までに作ったラグを見てみるとたぶん同じような色が見えるでしょう。それらの色はあなたがこれまでに習得し快く感じる色でしょう。ちょっとだけ頑張って嫌いな色や不快な色を使ってみましょう。使いこなせるよう頑張ってください。注意点は、背景には使わないことです。グループで一人一人が25cmくらいの苦手な扱いにくい色の布を紙袋に入れて持ち寄り、中を見ないで交換し、交換した新しい色を使ってみましょう。そうすることでその色があなたのお気に入りの色になるかもしれません。

技法

これまで培った技や手法を駆使しましょう。どんな技法が役立ちましたか？何を習う必要がありますか？まだ持っていない技法を展開するために何ができますか？本や創造的なステッチについての記事を読んだり、ステンドグラス・フッキングのウールのカッティング方法や立体的に仕上げる方法を友人に見せてもらうよう頼んだり、プロッキー技法のワークショップに参加しましょう。自分のレパートリーを広げたり、ほかの企画にも使いたいかもしれないコツを得るにはたくさんの方法があります。

あなたのフッキングを高めるかもしれないほかの布を使う技法を見過ごさないでください。空の雲に白いフェルト化したあらより糸の束を使ったり、プリミティブラグに三つ編みのふちを付けたり、仕切り模様の幾何学的模様などどれもあなたの作品に加えると素敵でしょう。ただフッキングするより、技術に其ずいた手法を広げていきましょう。

インスピレーション

最後にインスピレーションについてあなたの周りをよくみてみましょう。自然の中のすべてのもの、風景、人が作った建造物、色彩などがあなたの次の探求のスタート地点となりえます。フッカーだけでなくキルターやフェルターなどほかのファイバーアーティストたちの本や雑誌を読みましょう。また自分の国だけでなくほかの国、北アメリカ、英国、オーストラリアなどの本を探し出しましょう。

さあ、何があなたの箱かを認識し、新しい材料、形、色、技法などを使っておおきくしていきましょう。そして箱の外の世界でフッキングを大いに楽しみましょう。

翻訳：蜂須賀文